

道徳科 学習指導案

平成29年12月1日（金）第2校時（4の2教室） 4年2組 指導者

I 主 題 正しい判断

II 考 察

1 主題観

(1) 育まれる主な資質・能力の三つの柱

③学びに向かう力・人間性等

私心にとらわれず、誰に対しても分け隔てなく接しようとする
道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度

①知識・技能

私心にとらわれず、誰に対しても分け隔てなく接することについての理解

②思考力・判断力・表現力等

私心にとらわれず、誰に対しても分け隔てなく接することについての自己の考え

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

C 主として集団や社会との関わりに関すること

13 公正、公平、社会正義〔第3学年及び第4学年〕

誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。

(3) 主題や教材の価値

本主題は「公正、公平、社会正義」の内容項目のうち、私心にとらわれず、誰に対しても分け隔てなく接することの大切さについて考える学習である。その価値は以下のとおりである。

私心にとらわれず、誰に対しても分け隔てなく接することは大切である。なぜなら、集団生活の中では、一人一人が私心にとらわれず、誰に対しても分け隔てなく接することで、お互いを信用し合う関係が生まれ、そのような集団の中では安心して発言したり、行動したりすることができるからである。しかし、子どもたちは、自分の仲間を優先したり、自分の好みで判断したりする等、相手に対して不公平な態度で接してしまうことがある。だからこそ、子どもたちが私心にとらわれず、誰に対しても分け隔てなく接することの大切さに気づき、誰に対しても公正、公平な態度で接しようとする思いを高めていくことが大切である。

子どもたちの多くは、分け隔てなく友達と接することができている。授業では、自分と異なる考えに対して、そのよさを受け止めて話し合ったり、林間学校のグループ決めでは、声を掛け合って、一人になる子がないようにグループを組んだりする等している。しかし、仲よしの友達に対して、関係が悪くなることの不安や相手に好かれたいという思いから、よくないことをしてしまった時に注意できず、見て見ぬ振りをしてしまうこともある。このような子どもたちが、私心にとらわれず、誰に対しても分け隔てなく接することの大切さについて考えることは、誰に対しても分け隔てをしないで公正、公平に接しようとする態度を養うことにつながる。

そこで、教材「良太のはんだん」（光文書院）を使用する。教材の内容及び価値は、以下のとおり

である。

キックベースボール大会で、良太は光一とあゆ美のチームが対戦する試合の審判をしていた。ある場面で、良太は2人から判定を迫られる。試合をよく見ていなかった良太は、親友だからという理由で光一の味方をしてしまう。しかし、この出来事が気になった良太は、再度判定を迫られた場面で、公正な判定をすることができる。試合後、負けた光一も良太の判断を受け入れ、3人とも試合に満足し笑顔になる、という内容である。

導入では、親友の味方をして偏った判定をした主人公が、次は公正な判定をする姿から、私心にとらわれず、誰に対しても分け隔てなく接しようとするところについての問題意識を高めることができる。展開では、2回の判定後の登場人物の気持ちを比較して考えることで、私心にとらわれず、誰に対しても分け隔てなく接することの大切さに気付くことができる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、5年「同じ友達なもの」での、得手不得手にとらわれず、同じ人間として偏見を持たずに友達と接していくことの大切さについて考える学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちはこれまでに、3年「いつでも 誰でも」において、仲間外れをせず、誰に対しても公平な態度で人に接することの大切さについて考える学習をしてきた。その中で明らかになった子どもたちの実態及び本主題を進めるにあたっての指導方針は、以下のとおりである。

- ① 仲間外れをせず、誰もが楽しく生活を送るためには、公平な態度で人に接することが大切であるということについての理解を深めてきている。このような子どもたちが、集団生活の中で安心して生活することができるために、私心にとらわれず、誰に対しても分け隔てなく接することが大切であるということについての理解を深められるように、主人公のように公正な判断をする方法を問う学習課題を設定する。
- ② 仲間外れをせず、誰に対しても公平な態度で人に接することの大切さについて、自分との関わりで多面的・多角的に考えることができている。このような子どもたちが、私心にとらわれず、誰に対しても分け隔てなく接することの大切さについて、自分との関わりで多面的・多角的に考えられるように、学習課題に対する自分や友達の考えの妥当性を判断するメーターを用意する。
- ③ 仲間外れをせず、誰に対しても公平な態度で人に接しようとする態度を養ってきている。このような子どもたちが、私心にとらわれず、誰に対しても分け隔てなく接しようとする判断力、心情、実践意欲と態度を養えるように、学習したことを基に今までの自らの生活を振り返り、これからしていきたいことを記述する学習プリントを用意する。

Ⅲ 指導計画 ※Ⅲについては、別紙参照

Ⅳ 本時の学習

- 1 ねらい 主人公のように公正な判断をする方法について話し合うことを通して、私心にとらわれず、誰に対しても分け隔てなく接することの大切さに気づき、実践しようとする態度を養う。
- 2 準備 場面絵 メーター 学習プリント
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 誰に対しても分け隔てなく接することについての自らの考えを發表し合い、教材から、学習課題「どうしたら、良太くんのように正しい判定をすることができるのだろう。」をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひいきは好きな友達の味方をする事だよ。 ・良太くんは、1回目は親友の光一くんをひいきしたけれど、2回目はちゃんと審判をしたよ。 ・親友だどつい味方をしてしまうことがあるけど、ひいきしないで2回目に判定ができてよかったな。 ・ついひいきをしてしまうかもしれないけれど、正しい判定ができるとよいな。 <p>2 学習課題の解決に向けて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・判定ですっきりしない人の気持ちを考えると、正しい判定ができると思うよ。 ・確かに、友達なら受け入れてくれると考えると、正しい判定ができるかもしれないな。メーターだとこれぐらいかな。 ・良太くんは、周りの友達や自分の気持ちをすっきりさせたいと思ったから、正しい判定ができたのだと思うよ。 ・ひいきをしたくなる気持ちがあっても、周りの人の気持ちを考えるようにすれば、正しい判定ができると思うよ。 <p>3 今までの自らの生活を振り返り、これからしていきたいことを發表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までは、仲よしの友達が悪いことをしたときに注意できないことがあったな。だけど、周りの人の気持ちを考えると相手に注意した方がよいことが分かったよ。 ・休み時間にドッジボールをして、友達が当てられたときに、自分の有利な方にひいきするのではなく正しく判定するとみんなが納得して、安心して遊べると思うよ。これからは誰に対してもひいきをせずに、正しく接していきたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ねらいとする価値への方向付けを行えるように、ひいきの意味を問いかける。 ○教材「良太のはんだん」の内容を把握できるように、教材を範読し、登場人物と出来事を問いかける。 ○誰に対しても分け隔てなく接することについての、自らの道徳的価値観を振り返られるように、主人公の判定に対する感想を問いかける。 ○誰に対しても分け隔てなく接することについての問題意識を高められるように、公正な判定をしたいという気持ちと実現するのが難しいという気持ちを対比して板書し、目指したい生き方を問いかける。 ○学習課題に対する考えと根拠を学級全体で共有できるように、全体で發表するよう促す。 ○学習課題に対する自他の考えについて多面的・多角的に考えることができるように、妥当性をメーターで表すよう促す。 ○私心にとらわれず、誰に対しても分け隔てなく接することで、誰もが安心して過ごせることに気付けるように、主人公が公正な判定をすることができた理由を問いかける。 ○私心にとらわれず、誰に対しても分け隔てなく接しようとする思いを高められるように、正しい判定をすることの能否を問いかける。 ○よりよい自己の生き方についての思いや願いを明確にできるように、学習を振り返り、これからしていきたいことを發表するよう促す。 <div data-bbox="810 1671 1401 1957" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">評価項目</p> <p style="text-align: center;">私心にとらわれず、誰に対しても分け隔てなく接することについて、多面的・多角的に考えたことや、自分との関わりで考えたことを發言したり、記述したりしている。</p> <p style="text-align: center;"><發言・学習プリント></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○今後の生活への意欲をもてるように、生活への見通しを具体的にもてた子どもを賞賛する。

指導計画（全1時間）

ね ら い	主人公のように公正な判断をする方法について話し合うことを通して、私心にとらわれず、誰に対しても分け隔てなく接することの大切さに気づき、実践しようとする態度を養う。
教材	良太のはんだん（光文書院）
主題 構成	導入では、親友の味方をして偏った判定をした主人公が、次は公正な判定をする姿から、私心にとらわれず誰に対しても分け隔てなく接しようとすることについての問題意識を高めることができる。展開では、2回の判定後の登場人物の気持ちを比較して考えることで、私心にとらわれず、誰に対しても分け隔てなく接することの大切さに気付くことができる。
導入	○誰に対しても分け隔てなく接することについての自らの考えを發表し合い、教材から、学習課題「どうしたら、良太くんのように正しい判定をすることができるのだろう。」をつかむ。
展開	○学習課題の解決に向けて話し合う。
終末	○今までの自らの生活を振り返り、これからしていきたいことを發表し合う。
他の 教育 活動 との 関連	・体育科の「フィールドベースボール」「プレルボール」等で、ゲームを行う場面や休み時間にドッジボールや鬼ごっこ等で友達と遊ぶ場面。